

3級商業簿記		講義	教授 白山 真一	
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの専門選択科目、経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23022101	

1. 授業のねらい・概要

簿記は企業等の活動を記録するために経験的に生まれてきた“人類の英知”であり、また“技術”でもあります。今後学生諸君が社会に出て働いていくうえで不可欠の知識である簿記について、就職活動上でも有利になる日商簿記検定3級に合格できるレベルの「解答をすることができる力」を身につけられる授業を実施します。

2. 授業の進め方

各回について、以下の8.に記載のテキストを利用した講義形式で実施するため、受講を希望する学生は必ずテキストを購入して授業に持参して下さい。また、計算演習問題を授業中に実施することもあるため、毎回電卓も持参して下さい。

第12回から第14回のコマでは、日商簿記3級（本試験レベル）の問題を授業中に解いていただき、問題の解き方などを解説するなど、日商簿記3級合格に役立つような授業を実施します。

3. 授業計画

1. ガイダンスー簿記の基礎と簿記検定試験の概要ー	9. 決算手続①（現金過不足の処理・減価償却の計上など）
2. 商品売買	10. 決算手続②（売上原価の算定・経過勘定の処理など）
3. 現金預金	11. 決算手続③（財務諸表の作成）
4. 債務・有形固定資産	12. 日商簿記検定3級問題にチャレンジ①（仕訳問題・帳簿記入問題）
5. その他の取引①（未収入金・前払金・立替金など）	13. 日商簿記検定3級問題にチャレンジ②（伝票/試算表作成問題）
6. その他の取引②（差入保証金・消費税・株式発行など）	14. 日商簿記検定3級問題にチャレンジ③（精算表/財務諸表作成問題）
7. 帳簿と試算表	15. まとめと復習
8. 伝票と仕訳日計表	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の講義テーマについて、テキストの該当箇所の予習（30分程度）をしておいて下さい。また、復習は、教科書の各CHAPTERに記載されている基本問題（30分程度）を実施して下さい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日商簿記検定3級合格に必要な仕訳等について毎回10分程度の簡単な仕訳トレーニングを実施し解説します（ただし仕訳トレーニングの結果は成績評価には関係しない）。定期試験の際には、解答を導き出すためのプロセスの解説および解答例を配布します。

6. 授業における学修の到達目標

簿記の基礎・簿記一巡を理解したうえで、日商簿記検定試験3級に合格できるレベルを到達目標とします。

7. 成績評価の方法・基準

原則として、定期試験の結果（50%）及び授業への取組み姿勢（50%）によって、評価します。

8. テキスト・参考文献

テキストは、滝澤ななみ著（2022）『みんなが欲しかった簿記の教科書 第10版』（TAC出版）を使用します。また、簿記は基本的な考え方を理解すると同時に、自分で手を動かして仕訳を書いて、身体で覚えることがとても重要です。つまり「アウトプットを重視した“習うより慣れる”」ということです。そのため、日商簿記検定3級問題集なども講義と同時に各自で実施することをお奨めします。

9. 受講上の留意事項

「簿記論」を履修した程度の簿記能力を有した者を主たる対象としますが、必須の条件ではありません。疑問点や不明点は遠慮することなく積極的に質問してください。また、日商簿記検定受験についても公認会計士としての実務経験も踏まえて対応しますので、気軽に相談してください。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は、監査法人における公認会計士業務の経験及び会計専門学校における講師経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。